

「ともにつくるミライ」

上下中学校区学校再配置推進委員会だより

NO.3

令和8年4月6日(月)

上下中学校区学校再配置推進委員会

(お問合せ)

事務局：府中市教育委員会

教育政策課 教育推進係

TEL (0847) 44-9023

第3回上下中学校区学校再配置推進委員会を開催しました。

令和8年3月23日(月) 14時から上下北小学校において、第3回上下中学校区学校再配置推進委員会を開催しました。令和8年度スケジュールについての確認、アンケート結果についての意見交流を行った後に、グループに分かれて、『目指す子供像のために地域・学校・家庭で何ができるか』をテーマに熟議を行いました。『自己肯定感』『多様な出会いから学ぶ力』をキーワードとし、地域、学校、家庭それぞれの立場での課題や、どのような取組みが上下地域の子供たちに必要かを協議しました。

グループ協議・発表を行った後、推進委員会委員長の京都産業大学の西川信廣名誉教授からご講評いただき、新しい学校になったときにどのような具体的な取組みができるかを再確認いたしました。

最後にアンケート結果について、再配置に不安を感じている児童のケアや、校則、通学手段等について、各担当部会で協議を進めていくことを確認しました。

令和8年度からも、引き続き新しい学校づくりを進めてまいります。

【熟議テーマ】「目指す子供像のために地域・学校・家庭で何ができるか」

各グループで出た御意見(抜粋)

グループA(町内会)

- ・農業体験など様々な体験を通して、成功体験を積み重ねることが大切。
- ・地域の人の子供に人形の話を読み、子供が学校で発表し、周囲から褒められたという話がある。地域の人を知っていることを子供に伝え、子供がそれを生かすことが大切である。



グループB(CS)

- ・校内にCSルームを設置する。
- ・地域の方は学校を訪問するハードルが高い、いつでも地域の方が訪れることができる場所を作る。
- ・地域によっては子供が全くいないところがある、大人が子供の顔が分からない、子供も大人の顔が分からない。

お互い交流することで、子供が保護者や教師に相談できないことも地域の人に相談できる。



グループC(学校)



- ・自己肯定感については、子供たちの様子を見てると低いようには感じない。
- ・学年が上がるほど人間関係を気にする傾向がある。
- ・出来ていることに対する声掛け、挑戦しても良いという環境づくりが必要。

グループD(保護者)

- ・「自己肯定感」について保護者が正しく理解する必要がある。自分の意見を主張できる、リーダーシップがある子だけが自己肯定感が高いのではなく、今の自分でも良いんだと思えることが大切だと認識できた。
- ・子供の自己肯定感を上げるには、保護者自身も自己肯定感を上げる必要がある。



委員会・部会の開催予定

【第4回再配置推進委員会】 5月11日(月) 14:00~ 上下南小学校

○京都産業大学 西川名誉教授の講評（概要）

本日の議論の中心にあった「自己肯定感」とは「自分の値打ちを知る力」である。それは誰かに認められることで育つ部分もあるし、自分自身で気付く部分もある。この両方がある初めて、本当の意味での自己肯定感になる。



学校教育の話でよく言われるものに「見える学力」と「見えない学力」がある。テストの点数で測れるものが「見える学力」。一方で、意欲や関係性、挑戦する力は「見えない学力」。現実として、学校は点数を重視せざるをえない圧力がある。「点数をとらないといけない」「結果をださないといけない」しかし、私は、これからの時代の学力はそれを超えていると思っている。自分の値打ちを知った子供は、必ず自分を生かす学びに出会う。

それが数学かもしれないし、言葉かもしれないし、全く別の分野かもしれない。でも、自分の存在価値を実感している子は、必ずどこかで、自分の道を見つけていく。

そして今日、もう一つ強く感じたことがある、この場そのものが「学びの場」だったということである。この場がなければ、人の考えに触れることもなかった。こうやって対話することで、一人ひとりが成長していく。

令和9年度、新しい学校がスタートする。ここで問われているのは「新しい学校とは何か」である。建物が変わることでない、今日出たような考えを「具体化すること」がすべてである。

最後に、これからの学校について。私は、せっかく新しい学校をつくるのであれば、思い切ってやってほしいと思っている。例えば、・教科の枠を超える・探究型の学びを進める・地域と一体になった学びをつくる。「今まで通り」はやめましょう。上下だからこそできることがある。

地域の歴史、文化、人とのつながり、これを徹底的に学びに変えていく。

人口が減るから統合する、ではなく、ピンチをチャンスに変える。この地域には、その力があると、今日の議論を聞いて確信した。ぜひ、皆さんと一緒に、新しい学校をつくっていきましょう。

「点数の学校」から「価値を生む学校」へ

アンケートの実施結果について

学校再配置に伴う児童の思いや、保護者の皆様のご意見を聞き取るために、アンケートを実施しました。アンケート結果については、別紙に概要をまとめています。今後、再配置に対して児童が感じる不安や心配に関しては学校経営部会で、校則については生徒指導部会で、通学バス及びタクシーに関することは総務検討部会で協議をしております。そのほか、アンケートに記載があったご意見については各部会にて検討を進めてまいります。

報告事項における意見交流(抜粋)

- ・学校間の交流事業について、今までやってきた取組みだけなのが気になる。上下南小学校の児童が、上下北小学校で1日生活するというような日常を経験させることが大切ではないか。今一度検討して欲しい。
- ・校則を変えたいという意見があるが、なぜ校則があるのかという事も理解させないといけない。ただの制限ではなく、安心・安全な学校生活を送るためのものであるということも理解しなければいけない。
- ・アンケート結果で、続けたい学習内容が無いという児童が多数いることが気になる。質問の意味の理解が難しかったのかもしれないが、子供たちが学びたいと思う学習内容にしてほしい。

【教育長メッセージ】

第2回委員会では、「目指す子供像」について保護者や地域、学校それぞれの立場から多くのご意見をいただき、その意見をもとに第3回委員会で地域・学校・家庭で何が出来るかという視点で協議しました。

それぞれの立場で、具体的に何が出来るかを熱心に議論していただき、委員のみならず市教委、学校にとっても、大きな学びや気づきが生まれる場になりました。

今後も力を合わせ、子供たちのよりよい未来のために、一つ一つ着実に取り組んでまいります。ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

